

令和2年度 大阪緑涼高等学校 学校評価（報告）

<学校評価>

1. 目指す学校像

2. 中期目標

○学習指導

○生活指導

○教員研修

○進路指導

○地域連携

○広報活動

○その他の領域

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

<学校関係者評価>

- ◆藤井寺市教育長、藤井寺市区長会会長、藤井寺市春日丘自治会会長、
辛國神社宮司との意見交換

<アンケート報告>

- ◆生徒・保護者アンケート

<参考>

- ◆学校評価委員会議事録

令和2年度 大阪緑涼高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

- (1) 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
- (2) 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
- (3) 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
- (4) HR活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
- (5) 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
- (6) 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
- (7) 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校

2. 中期目標

○学習指導

- (1) 全教員は教科の時間に責任を持ち、担任との連携を密にする。
- (2) 授業やHRなどでの私語や居眠り、立ち歩き等の妨害行為は、他の生徒の学習権への侵害であることを理解させ、授業規律確立に向けた指導を行う。
- (3) 全教員は常に自らの授業実践を相対化し、主体的・対話的で深い、魅力的な学びの機会となるよう研鑽を重ね、授業改善に取り組む。
- (4) 基礎学力の定着と向上を図るため、必要とされる生徒への補習体制を強化し、一定の基準を満たさない場合は必須の補習を実施する。
- (5) 生活と学びを通して生徒の共同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。
- (6) 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力量の向上に努める。
- (7) 英語検定・漢字検定・簿記検定など各種検定の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。

○生活指導

- (1) 生徒一人ひとりをかけがえのない存在と認識し、分掌・学年・担任・顧問などが連携を深め、重層的で粘り強い指導を行う。適宜、校長・副校長・教頭に情報伝達し、組織として有効的な改善策を早期に講じる。
- (2) 遅刻や欠席が多い生徒については、生活の背景を含めて原因を分析し、保護者と協力・連携して克服につなげていく。また、必要に応じて相談センターなど公的機関とも連携し、サポートを行う。
- (3) 服装や髪型・化粧など校則違反生徒に対しては、全教員が校則遵守の意義を粘り強く説き、理解と納得を得られるよう努める。教員によって指導の基準や熱心さに差が出ないように生活指導部教員だけでなく全教職員が生活指導を行う。
- (4) 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、家庭とも連携しその発達課題に応じた丁寧な指導を行う。
- (5) 学校行事などを活性化させ、生徒たちの自治的活動を通して、生徒一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。

○教員研修

- (1) 男女共学での教育・指導方法について日々の実践を通じて検証し、新しい本校教育の確立をめざす。
- (2) 研修・研究会に参加し、教育力・指導力を高める。本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会も開催する。
- (3) 各コースは、目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努めるため、PDCAを学期毎に策定する。定期的なコース会議で確認し、成果と課題の確認を行う。
- (4) 公開授業や授業参観・授業アンケートを実施し、教科会議などで現状把握・分析・検討を行い、教育内容をより充実したものへと改善・充実・発展を図る。
- (5) 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努める。
- (6) 図書館の大改革を行い、生徒たちが行って楽しい・本好きになる創造の場へと変容させる。また、地域貢献の一環として絵本広場の定期的な開放や保育系進学コースの実習の場にも活用できるように検討を行う。

○進路指導

- (1) 生徒が自分自身の希望と適性、能力を把握し、「なりたい自分」に向けて具体的な進路選択が可能となるよう早期からサポートを行う。
- (2) 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。
- (3) 系列大学との高大連携を進めるため、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。
- (4) 指定校推薦の充実を図れるよう大学・短大・専門学校との個別連携を深める。
- (5) 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実に努める。
- (6) 調理製菓科では現場のシェフやパティシエ・パティシエールを招いた授業を取り入れ、インターンシップなどの参加を積極的に促し、ホテル・レストラン等と連携しながら生徒たちのキャリア育成を図る。

○地域連携

- (1) 藤井寺・春日丘地域を美しく保全するため地域清掃などに取り組む。
- (2) 水と緑の豊かなキャンパスを地元の保育園・幼稚園、親子散歩コースとして開放し、絵本講座も実施するなど、幼児教育の専門家を養成する本校の役割を継続する。
- (3) 課外活動・クラブ活動の発表を自治体や地域のイベント等で行い、住民とつながることで、藤井寺・南河内に根ざし、なくてはならない学校へ飛躍できるよう取り組む。
- (4) 本学の教員が中心となって公開講座や講習を行う。
- (5) 藤井寺市との連携協定に基づいて、地域に学び・交流・貢献できる教育を推進する。

○広報活動

- (1) 生徒が本校での生活を通して学び成長することが最大の広報活動であることを認識し、手厚い教育活動を行う。
- (2) 全教職員の力を結集しパンフレット・ホームページなどで本校の魅力を伝え、思いやりと礼節にあふれた対応で募集活動を行い、募集定員確保に努める。
- (3) 渉外・企画広報部担当者のみならず、全ての教員が広報活動に積極的に関わっていく。
- (4) 私学展やイブニング説明会等も教員が主体的に意見を出し合いながら実践し、本校の魅力を発信する創意工夫された募集イベントを行う。
- (5) 近隣中学校との連携をさらに強化し、地元根ざした高校を目指す。

○その他の領域

- (1) 保護者会との連携をさらに強化し、保護者からの貴重な意見を教育・指導・広報に役立てていく。
- (2) 美化に繋がる方策を教職員と生徒で熟考し、新たな取り組みを実践していく。
- (3) 防犯、新型コロナウイルス感染防止などへの対応を含めた健康管理に繋がる対策をさらに講じていく。
- (4) 教職員の健康保全・危機管理対策について常に留意しながら、適正に運用していく。
- (5) より多くの教育的期待に応え、募集定員充足を果たすために、将来構想を充実して行い、教職員の知恵と協力を結集させて新系統を早期に構想し、実現に結び付けていく。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

[自己評価アンケートの結果と分析(令和3年2月実施分)]	学校評価委員会からの意見																																																																																
<p>□学習指導</p> <p>○教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている。</p> <table border="1" data-bbox="159 320 840 468"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 70.0%</td> <td>71.2%、</td> <td>2019年度 61.1%</td> <td>65.6%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 22.4%</td> <td>22.6%、</td> <td>2019年度 26.7%</td> <td>26.0%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 7.6%</td> <td>6.2%、</td> <td>2019年度 12.2%</td> <td>8.4%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>コロナ禍は心身ともに不安定な思春期の生徒に大きな心理的・肉体的負担となっており、最も身近な相談相手として発達支援職である教員が果たすべき役割は今まで以上に高い専門性と見識が求められている。社会や経済、地域の状況等生活背景を踏まえて生徒理解を深めようよう学習・研究・研鑽に努め、より丁寧な学習サポートやケア的な観点を持った支援をしていく必要がある。</p> <p>○教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿ったわかりやすい授業を行っている。</p> <table border="1" data-bbox="159 744 840 893"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 69.5%</td> <td>61.7%、</td> <td>2019年度 55.8%</td> <td>55.3%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 23.0%</td> <td>32.3%、</td> <td>2019年度 33.2%</td> <td>34.1%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 7.3%</td> <td>5.8%、</td> <td>2019年度 11.0%</td> <td>10.6%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>全国一斉休校明けの分散登校時、教室で生徒と対面して授業ができることを喜び合う光景が数多く見られた。全学年、コロナ禍で授業時数が減少し、生徒の学力低下が懸念される中、一人ひとりの困りに寄り添った学力実態を把握がなされ、「わかる授業」「対話的で深い授業」の実践を重ねてきた。全学年通じて生徒、保護者ともに肯定的意見が大きく伸びているのは、それを裏付けており、その方向で一層丁寧な指導を進めていきたい。</p> <p>○教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている。</p> <table border="1" data-bbox="159 1199 840 1347"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 71.0%</td> <td>63.3%、</td> <td>2019年度 62.4%</td> <td>57.8%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 23.4%</td> <td>30.2%、</td> <td>2019年度 30.2%</td> <td>31.8%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 5.6%</td> <td>6.0%、</td> <td>2019年度 7.5%</td> <td>10.5%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>コロナ禍によって全国一斉休校となり、学びからスポイルされた生徒たちに、作業的なプリントではなく、次の学年での学びにつながり、知的な刺激となりうる学習課題を用意して郵送した。学校再開後は、それを導入教材として基礎学力向上につなげていた。とりわけ新入生に対しては、中学既習範囲の学び直しに各教科で丁寧に取り組んだ。とくに1年生が肯定的・中間的意見が高く否定的意見が低いのは、中学校で習熟できなかった学びから始め放課後学習も活用しながら丁寧に進めていったことが表れている。長期化するコロナ禍によって、生徒の学ぶ機会と生徒にあった指導内容をどう保証していくか検討を続ける必要がある。</p> <p>○教員は英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している。</p> <table border="1" data-bbox="159 1685 840 1834"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 73.2%</td> <td>69.8%、</td> <td>2019年度 64.9%</td> <td>64.7%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 20.7%</td> <td>25.4%、</td> <td>2019年度 27.1%</td> <td>24.1%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 6.1%</td> <td>4.6%、</td> <td>2019年度 8.0%</td> <td>11.2%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>放課後の英語検定対策講座、文理ハイレベルコースの対策授業に加え、英語科教員による個別指導が広がり、生徒・保護者の期待に応える対応が構築できつつある。全コースにわたって各種検定取得の優位性が周知された結果、受験数が大幅に増えており、準1級合格者も1名輩出できた。今後は合格率を高め、それぞれの指導内容の共有化を図り、質的向上を図っていききたい。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 70.0%	71.2%、	2019年度 61.1%	65.6%)	中間的意見	(2020年度 22.4%	22.6%、	2019年度 26.7%	26.0%)	否定的意見	(2020年度 7.6%	6.2%、	2019年度 12.2%	8.4%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 69.5%	61.7%、	2019年度 55.8%	55.3%)	中間的意見	(2020年度 23.0%	32.3%、	2019年度 33.2%	34.1%)	否定的意見	(2020年度 7.3%	5.8%、	2019年度 11.0%	10.6%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 71.0%	63.3%、	2019年度 62.4%	57.8%)	中間的意見	(2020年度 23.4%	30.2%、	2019年度 30.2%	31.8%)	否定的意見	(2020年度 5.6%	6.0%、	2019年度 7.5%	10.5%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 73.2%	69.8%、	2019年度 64.9%	64.7%)	中間的意見	(2020年度 20.7%	25.4%、	2019年度 27.1%	24.1%)	否定的意見	(2020年度 6.1%	4.6%、	2019年度 8.0%	11.2%)	<p><相談等に丁寧に応じている></p> <p>コロナ禍による全国一斉臨時休校など、生活・学習・友人関係をうまく結べていなかった生徒の不安にこたえる質問・相談の対応がなされ、肯定的意見が生徒70.0%、保護者71.2%、中間的意見と合わせると生徒92.4%、保護者93.8%と、前年度を大きく上回っている。コロナ禍が長期化する中で、生徒のストレスが増大することが予想される中、本校教員の取り組みへの理解と信頼を継続して構築し、深化できるよう専門性を高め、きめ細やかで思いやりあふれる対応をはかる必要がある。</p> <p><授業のわかりやすさ・基礎学力の向上と定着></p> <p>「基礎学力の向上と定着」は「わかる授業」とともに前年までと比較して肯定的評価が大きく伸びている。コロナ禍によって学びの機会を奪われた生徒に、何ができるか、何を学力として保証するか、各教科、教員が真剣に向き合うことは、学ぶ内容と授業の在り方を問い直す好機ともなった。このことは家庭送付学習課題づくりにも生かされ、単純作業的なプリント等で「実績作り」とすることなく、本当に今生徒に学んでほしいことは何かを吟味することで、質的に良いものが用意できた。再開までの間は、手紙や電話で双方向に連絡を取り、丁寧に相談に応じた。学習課題作りの取り組みの発想が学校再開後の授業の在り方を方向づけた。「誰ひとりも取り残さない」学校・授業を作りあうために、公開授業・校内研修会を開催し改善に努めた。リモート型含め官制・民間研修会や研究会・講演会などにも積極的に参加し、さらなる授業研究を進める必要がある。</p> <p><各種資格取得支援></p> <p>否定的意見は生徒6.1%、保護者4.6%であり、教員が繰り返し、検定取得の有意・有効性について生徒に伝え、校内外での受験案内を行ってきたことが結果に表れている。専門学科推薦入試等の対象学科である調理製菓科に対しては、受験必須要件となっていること、資格取得を優遇措置としている大学があることなどの情報も資料を配布して繰り返し説明した。</p>
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2020年度 70.0%	71.2%、	2019年度 61.1%	65.6%)																																																																													
中間的意見	(2020年度 22.4%	22.6%、	2019年度 26.7%	26.0%)																																																																													
否定的意見	(2020年度 7.6%	6.2%、	2019年度 12.2%	8.4%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2020年度 69.5%	61.7%、	2019年度 55.8%	55.3%)																																																																													
中間的意見	(2020年度 23.0%	32.3%、	2019年度 33.2%	34.1%)																																																																													
否定的意見	(2020年度 7.3%	5.8%、	2019年度 11.0%	10.6%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2020年度 71.0%	63.3%、	2019年度 62.4%	57.8%)																																																																													
中間的意見	(2020年度 23.4%	30.2%、	2019年度 30.2%	31.8%)																																																																													
否定的意見	(2020年度 5.6%	6.0%、	2019年度 7.5%	10.5%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2020年度 73.2%	69.8%、	2019年度 64.9%	64.7%)																																																																													
中間的意見	(2020年度 20.7%	25.4%、	2019年度 27.1%	24.1%)																																																																													
否定的意見	(2020年度 6.1%	4.6%、	2019年度 8.0%	11.2%)																																																																													
<p>□生活指導</p> <p>○あなたは本校に入学してよかった・子どもを本校に入学させてよかった。</p> <table border="1" data-bbox="159 2128 840 2276"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 65.0%</td> <td>77.6%、</td> <td>2019年度 61.1%</td> <td>75.5%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 23.6%</td> <td>16.9%、</td> <td>2019年度 22.1%</td> <td>15.2%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 10.6%</td> <td>5.0%、</td> <td>2019年度 16.8%</td> <td>9.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒・保護者ともに肯定的な回答が増加している。また、コロナ禍で入学してきた1年生は66.4%が「入学してよかった」と回答している。先述した家庭送付学習課題や基礎学力回復・定着を図るわかりやすい授業づくりなどの学びに加え、入学式に代わる「新入生のつどい」をはじめ、可能な限り感染対策を行ったうえで学校行事を実施してきたこと、本校教育の生命線でもある丁寧な生徒理解と粘り強い対応が結果に結びついてきている。ただし、全校生徒の1割が否定的回答をしていることを軽視せず、今後も学校全体としてどの生徒にも居場所のある、温かで行き届いた教育を進めていきたい。</p> <p>○学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している。</p> <table border="1" data-bbox="159 2614 840 2763"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 65.4%</td> <td>64.5%、</td> <td>2019年度 58.4%</td> <td>57.4%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 28.8%</td> <td>29.8%、</td> <td>2019年度 32.7%</td> <td>32.4%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 5.6%</td> <td>5.5%、</td> <td>2019年度 8.9%</td> <td>10.2%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>健康調査カードの活用・手指洗浄と消毒、マスクの着用・フィジカルディスタンス・昼食時の黙食などコロナ感染拡大防止対策を初期から徹底してきた。罹患者、濃厚接触者などの情</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 65.0%	77.6%、	2019年度 61.1%	75.5%)	中間的意見	(2020年度 23.6%	16.9%、	2019年度 22.1%	15.2%)	否定的意見	(2020年度 10.6%	5.0%、	2019年度 16.8%	9.3%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 65.4%	64.5%、	2019年度 58.4%	57.4%)	中間的意見	(2020年度 28.8%	29.8%、	2019年度 32.7%	32.4%)	否定的意見	(2020年度 5.6%	5.5%、	2019年度 8.9%	10.2%)	<p><入学してよかった></p> <p>生徒の肯定的回答も伸びており、8割近い保護者が本校教育へ高い信頼を表明していることは日常的に丁寧で親身な教育を積み重ねてきた成果である。さらに生徒自身が出会いと学び、かかわりを深める中で、成長を実感できたとき「本校に入学して良かった」はさらに高まっていくと考えられる。調理製菓科設立・男女共学化の1期生にあたる3年生のみに限ると78.3%が「入学して良かった」としており、本校の教育活動の成果・到達点としてとらえたい。</p> <p><生徒の心身の健康維持を支援></p> <p>コロナ感染症への不安と生活困難、家族関係の複雑さなどが相まって、以前にもまして心身の不調を訴える生徒は多い。心的不調や外科的治療を要する来室者と発熱を訴える生徒を分けて対応するために、各学年の教員と連携をとって、職員室で対応するケースも増えている。37度以上の生徒には帰宅して安静にするよう指導する一方で、健康指導カードの記録と合わせ、平熱の状況も鑑みて総合的に判断するケースもあった。保健便りは管理職の助言も盛り込んで毎月定期発行されており、感染対策予防法の具体的なアドバイスなど時宜に見合った健康増進への啓発活動に取り組んでいる。</p>																																								
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2020年度 65.0%	77.6%、	2019年度 61.1%	75.5%)																																																																													
中間的意見	(2020年度 23.6%	16.9%、	2019年度 22.1%	15.2%)																																																																													
否定的意見	(2020年度 10.6%	5.0%、	2019年度 16.8%	9.3%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2020年度 65.4%	64.5%、	2019年度 58.4%	57.4%)																																																																													
中間的意見	(2020年度 28.8%	29.8%、	2019年度 32.7%	32.4%)																																																																													
否定的意見	(2020年度 5.6%	5.5%、	2019年度 8.9%	10.2%)																																																																													

報について、教員・管理職・学校医との情報共有を図り、発熱生徒への対応等にも一人ひとりの状況に応じて、丁寧な対応を重ねてきた。また、不登校生等委員会での緊密な情報共有で、教員・保健室・カウンセラーの丁寧な相談と対応が可能になっており、その結果が生徒・保護者ともに肯定的回答の増加につながっている。今後も全教員が一人ひとりの生徒の健康状況に目配り、心配りにつとめ、保健室・カウンセラーと緊密な連携を重ね、より親身で手厚いサポートを行いたい。

○教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している。

	生徒 保護者	生徒 保護者
肯定的意見 (2020年度)	65.8%	64.2%
2019年度	58.4%	58.9%
中間的意見 (2020年度)	24.0%	29.3%
2019年度	27.5%	32.4%
否定的意見 (2020年度)	10.2%	6.5%
2019年度	14.1%	8.6%

担任、副担任を中心に、朝・終礼やロングホームルームの時間を出席確認と連絡事項の伝達にとどめることなく、クラス独自の工夫された取り組みが広がってきている。「担任を持つあなたへ講座」をはじめ、参考書籍の回覧や学年教員間での話し合いを通して、若い教員にも意欲的にクラス運営に向かう姿勢がみられ、それがこの分野での高い評価につながってきている。学校行事の運用も含めて「誰も取り残さないクラス」づくりに向けた教員と生徒とのつながり、生徒相互の関わりあいを作るための目当てと手だてについて、継続的に研修会等で学ぶ必要がある。

○緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している。

	生徒 保護者	生徒 保護者
肯定的意見 (2020年度)	70.6%	70.2%
2019年度	64.5%	73.3%
中間的意見 (2020年度)	22.3%	23.8%
2019年度	22.8%	16.2%
否定的意見 (2020年度)	7.1%	5.5%
2019年度	12.7%	10.5%

コロナ禍で修学旅行が中止になるなど、学校行事や部活等の課外活動にはかつてない厳しい活動制限が加わり、全国一斉休校の影響や感染不安から部活動への参加率も減少傾向にある。各学年ではクラブ見学週間や校外学習の企画を生徒が楽しめるものにするべく、様々な工夫を凝らしていた。これらが、活動制限下でありながら、肯定的回答の増加につながっている。一方で、こうした活動の主役は生徒自身であり、企画立案から実行、総括までを経験させることで、「高校生活の思い出作り」から、成長する機会としていきたい。

○教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している。

	生徒 保護者	生徒 保護者
肯定的意見 (2020年度)	63.7%	60.8%
2019年度	56.3%	61.7%
中間的意見 (2020年度)	28.4%	30.7%
2019年度	32.2%	28.1%
否定的意見 (2020年度)	7.7%	7.3%
2019年度	11.5%	10.2%

コロナ禍で活動制限や徹底した感染防止対策に取り組んだことで、クラブ活動、生徒会活動について生徒からの肯定的回答はむしろ前年よりも増えている。また、否定的回答の激減からも学校側の取り組み姿勢が信頼され、浸透していることがうかがえる。従来以上にコミュニケーションを図ることが困難になっている状況で、部活や生徒会の今日的な指導のあり方を質・量ともに向上させ、肯定的回答70%超を目指したい。

○学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている。

	生徒 保護者	生徒 保護者
肯定的意見 (2020年度)	57.3%	63.3%
2019年度	52.1%	61.8%
中間的意見 (2020年度)	25.7%	26.8%
2019年度	27.5%	21.3%
否定的意見 (2020年度)	16.8%	9.7%
2019年度	20.5%	16.9%

学校生活の基本に関わる指導事項について、生徒に納得のいく丁寧な説明を重ねてきたことが浸透してきている。生きづらさを抱える生徒の一部に過剰な装飾具を装着する傾向があり、自傷行為の一種と考えられる。また、教員に気づいて声かけをしてほしいとのサインとも考えられるため、外させる指導だけでなく、その背景を聞き取りケアする必要がある。今後も生徒の状況に応じたより丁寧な指導を重ね、落ち着いた教育環境を築いていく必要がある。

○学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている。

	生徒 保護者	生徒 保護者
肯定的意見 (2020年度)	57.6%	53.1%
2019年度	46.6%	47.7%
中間的意見 (2020年度)	32.5%	38.8%
2019年度	41.2%	40.4%
否定的意見 (2020年度)	9.5%	7.6%
2019年度	12.1%	11.9%

いじめの実態解明と解決には教員と生徒・保護者との丁寧な連携や信頼関係が不可欠であり、事象発生の背景を含め、深い生徒理解のための研鑽を重ね、そうした関わりを構築していきたい。いじめに関して生徒の肯定的回答は10%以上増加し、十分とは言えないが、保護者の肯定的回答も増えている。本校がいじめ問題や人権問題に真摯に取り組んでいることに理解と信頼が構築されてきている。また、加害・被害双方の生徒への指導の在り方について研鑽を重ねていく必要がある。

○学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している。

	生徒 保護者	生徒 保護者
肯定的意見 (2020年度)	63.4%	55.4%
2019年度	58.0%	47.1%
中間的意見 (2020年度)	29.4%	38.1%
2019年度	33.3%	42.6%
否定的意見 (2020年度)	7.0%	5.8%
2019年度	8.7%	10.3%

生徒・保護者ともにここ数年、着実に肯定的回答が増加し、否定的意見が減少に転じている。授業や総合学習やLHRを通じて、平和・ジェンダー・人権等についての本校の取り組みに対する理解と評価がうかがえる。建学の理念と合わせ、高い人権意識を有した「世に役立つ人格の養成」として生徒の人格形成が図られるよう一層努める必要がある。

<生徒理解やクラス作りの積極的取り組み>

コロナ禍でマスク着用となり、生徒の表情の変化が読みづらくなっているが、朝夕のSHRやLHRでクラス・生徒の些細な変化に気づける観察力と丁寧な心配りが欠かせない。担任、副担任、教科担当などの各教員が生徒の状況に目を配り、朝・終礼や清掃など、あらゆる機会を生徒理解の機会としている。一方で、緑涼祭など自治的活動・課外活動については昨年度に比べ肯定的回答が大幅に上昇している。コロナ禍で前日祭のステージの中止や文化の部において保護者を含め招待者無しではあったが開催できたことが、生徒のこうした評価につながっていると考えられる。今後は生徒たちの自治的活動を教員がどうリードし、生徒自身の動きと発想を引き出し、生徒自身のものに育てていくかは教員が一層の研鑽を重ねる必要がある。

<クラブ・生徒会活動の支援>

学校行事と合わせ、クラブ活動は生徒たちに豊かな高校生活を保障するうえで極めて重要であり、感染を広げない・クラスターを起さない徹底した感染防止とともに指導の工夫を重ねてきた。一層留意し向上を図り、加入率を高め、活動を活性化し、生徒たちの高校生活を充実させていきたい。

<学校生活における適切な指導>

生徒の肯定的回答が5.2%増加し、一方で否定的回答が減少しており、学校生活の基本である遅刻や身だしなみ、頭髪等について指導への理解が進んできたことがうかがえる。ただし、全体的な理解を得るには25%を占める中間的意見の生徒たちへの説得を尽くし、納得を得る営みが欠かせない。今後も、より一層丁寧で粘り強い指導が求められている。

<いじめ防止の取り組み・人権教育>

担任中心に学期ごとのいじめアンケート(1学期のみ無記名)と日常的な生徒の動向を把握し、1週間に一度不登校生等委員会を開催し、その萌芽に気づき、適切な手立てをとることで、いじめなど深刻化する前に抑えてきている。保護者との連携を密にして信頼関係を構築し、生徒たちが相談しやすい環境作りに努めてきた。コロナ禍において、罹患・濃厚接触等で差別的な対応をせず、当事者を慮る生徒が圧倒的であったことは、この間の取り組みの成果である。ただし、生徒・保護者ともにこの問題の性質上、一層の高い評価が得られるよう、地道な取り組みを継続する必要がある。

<p>□教員研修 ○学校は建学の理念や教育目標をわかりやすく示し、教育に反映させている。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 61.1%)</td> <td>62.6%</td> <td>(2019年度 45.8%)</td> <td>56.6%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 27.3%)</td> <td>30.9%</td> <td>(2019年度 37.4%)</td> <td>31.6%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 11.4%)</td> <td>6.0%</td> <td>(2019年度 16.7%)</td> <td>11.8%</td> </tr> </table> <p>毎朝の正門指導でのあいさつ励行、新入生のつどい、感染対策の観点から校内放送や学年別分散開催という制約はあったものの、始業式、終業式などでの校長講話を通して、建学の理念・教育目標は自身の体験や思いをこめた挿話とともにわかりやすく伝えている。理事長講演を通じて、建学の理念を教員も深く学び、生徒一人ひとりに伝わる教育を行っている成果が少しずつ表れている。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 61.1%)	62.6%	(2019年度 45.8%)	56.6%	中間的意見	(2020年度 27.3%)	30.9%	(2019年度 37.4%)	31.6%	否定的意見	(2020年度 11.4%)	6.0%	(2019年度 16.7%)	11.8%	<p><建学の理念や教育目標の理解> 生徒の肯定的回答が大きく伸びており、保護者からも本校の取り組みへの理解が進んでいる。若い新任教員も増える中、教員研修も重ね、理事長講演などを通じて教員一人ひとりが建学の理念や教育目標を意識し、教育活動の隅々にまで浸透、具現化していきたい。</p>																				
	生徒	保護者	生徒	保護者																																					
肯定的意見	(2020年度 61.1%)	62.6%	(2019年度 45.8%)	56.6%																																					
中間的意見	(2020年度 27.3%)	30.9%	(2019年度 37.4%)	31.6%																																					
否定的意見	(2020年度 11.4%)	6.0%	(2019年度 16.7%)	11.8%																																					
<p>□進路指導 ○教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 71.4%)</td> <td>64.9%</td> <td>(2019年度 61.1%)</td> <td>62.9%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 23.8%)</td> <td>28.6%</td> <td>(2019年度 31.0%)</td> <td>28.3%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 4.8%)</td> <td>5.8%</td> <td>(2019年度 8.0%)</td> <td>8.8%</td> </tr> </table> <p>1・2年生は生徒一人ひとりの進路にかかわる興味関心や希望を引き出す総合学習を実施している。3年生の進路選択については全国一斉臨時休校中も全家庭への電話連絡を定期的に行い、資料取り寄せ、リモート型のオープンキャンパスの案内を含めたアドバイスや不安、質問への応答などの丁寧な対応を行った。休校明け後には、緊急的に3者懇談会を開催し、生徒の丁寧な指導を重ね、さらに調理製菓科1期生の就職・進学に向けて、親身で徹底した個別対応がなされたことが、生徒、保護者からの肯定的回答が増加につながっている。今後も、担任・進路部長・教育アドバイザーだけでなく、副担任・進路指導部・教科担当も連携して一人ひとりの希望に応じたよりの確で、親身な指導を実現できるよう研修会等で教員の資質向上の機会を重ねる必要がある。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 71.4%)	64.9%	(2019年度 61.1%)	62.9%	中間的意見	(2020年度 23.8%)	28.6%	(2019年度 31.0%)	28.3%	否定的意見	(2020年度 4.8%)	5.8%	(2019年度 8.0%)	8.8%	<p><丁寧な進路指導> 進路希望は情報提供にとどまらず、目標が具体化されていない生徒たちと粘り強く対話し、アドバイスを重ねることが求められる。その面倒見の良い進路相談を通して信頼関係を構築し、確かな選択へつなげていくことが必要である。今後も各科・各コースの生徒たち一人ひとりが希望する進路情報をきめ細かく提供、相談に応じることで希望進路の実現に向け取り組む。</p>																				
	生徒	保護者	生徒	保護者																																					
肯定的意見	(2020年度 71.4%)	64.9%	(2019年度 61.1%)	62.9%																																					
中間的意見	(2020年度 23.8%)	28.6%	(2019年度 31.0%)	28.3%																																					
否定的意見	(2020年度 4.8%)	5.8%	(2019年度 8.0%)	8.8%																																					
<p>□その他の領域 ○学校は学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校への様子をお知らせしている。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 74.9%)</td> <td>76.2%</td> <td>(2019年度 52.8%)</td> <td>62.8%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 20.5%)</td> <td>16.9%</td> <td>(2019年度 35.8%)</td> <td>27.3%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 4.6%)</td> <td>6.4%</td> <td>(2019年度 11.4%)</td> <td>9.8%</td> </tr> </table> <p>本校は大阪府外からの通学生を抱える調理製菓科をはじめ、通学区域が広域にわたっている。学級通信・学年通信・お便りだけでなく、谷学ネット・ホームページ（保護者専用のパスワード）を活用し、コロナ関連による緊急連絡・生徒たちの学校生活の様子や課外活動での活躍などを継続的に発信してきた。こうした取り組みに対して、生徒・保護者からの肯定的回答が飛躍的に伸びている。今後は、お便りそのものをメール添付して迅速に連絡できるツール導入を活用していきたい。</p> <p>○学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2020年度 64.4%)</td> <td>74.6%</td> <td>(2019年度 55.3%)</td> <td>61.8%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2020年度 27.5%)</td> <td>20.8%</td> <td>(2019年度 30.0%)</td> <td>27.1%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2020年度 7.9%)</td> <td>4.4%</td> <td>(2019年度 14.7%)</td> <td>11.1%</td> </tr> </table> <p>経年劣化による老朽化の進行、防音性、静粛性に課題のある3号館・体育館に加え、1号館でも空調機器に水漏れが発生するなど、メンテナンスが引き続き課題となっている。また、防災上からも一カ所から、全校に向けて一斉放送できる放送設備の改善が求められる。この後も安全な教育環境の維持に努め、生徒が安心して学習や課外活動に集中できるよう積極的に取り組んでいきたい。また、緊急事態宣言やまん延防止など、コロナ感染拡大防止のための方策に生徒・保護者に一層の理解が進むよう熟考していく。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 74.9%)	76.2%	(2019年度 52.8%)	62.8%	中間的意見	(2020年度 20.5%)	16.9%	(2019年度 35.8%)	27.3%	否定的意見	(2020年度 4.6%)	6.4%	(2019年度 11.4%)	9.8%		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2020年度 64.4%)	74.6%	(2019年度 55.3%)	61.8%	中間的意見	(2020年度 27.5%)	20.8%	(2019年度 30.0%)	27.1%	否定的意見	(2020年度 7.9%)	4.4%	(2019年度 14.7%)	11.1%	<p><学校の様子をお知らせ> コロナ禍によって全国一斉臨時休校措置がとられ、学校と生徒・保護者をつなぐために何をどう発信すべきか、全教員で考え合い、従来になかった様々な対応がとられた。2度の学習課題や学年・学級通信郵送、担任による電話連絡、谷学ネット、ホームページ、インスタグラム等のあらゆるツールを用いて学校から発信される情報・連絡が格段に増えた。また、感染防止の観点から保護者来校を制限せざるをえない状況で、個人情報に配慮しつつ、生徒たちの学びや緑涼祭などの諸行事、クラブ活動等での生き活きた様子を画像も交えて発信し続けた。さらに、ホームページでの保護者情報にパスワードを設定することで、学校から重要なお知らせを発信することを可能にした。今後も保護者に学校教育に関する情報を提供し、緊密な連携を図るため、あらゆるツールを積極的に活用して、より効果的に運用していきたい。</p> <p><施設設備の完全管理> 本校は校舎内外はもちろん、樹木の剪定やせせらぎや池の水質管理など清掃が行き届いている。生徒たちの使用状況も丁寧で、「思いやりと礼節」の浸透が感じられる。一方で、昨年度に比して生徒保護者の肯定的回答が上昇し、否定的意見は減少しており、コロナ禍でのクラブや学校教育への活動時間制限等について、十分な理解が得られていない可能性がある。今後も感染症拡大防止の取り組みとして、一定の制限は不可避であることから、生徒・保護者に向けて丁寧に説明を尽くしていく必要がある。</p>
	生徒	保護者	生徒	保護者																																					
肯定的意見	(2020年度 74.9%)	76.2%	(2019年度 52.8%)	62.8%																																					
中間的意見	(2020年度 20.5%)	16.9%	(2019年度 35.8%)	27.3%																																					
否定的意見	(2020年度 4.6%)	6.4%	(2019年度 11.4%)	9.8%																																					
	生徒	保護者	生徒	保護者																																					
肯定的意見	(2020年度 64.4%)	74.6%	(2019年度 55.3%)	61.8%																																					
中間的意見	(2020年度 27.5%)	20.8%	(2019年度 30.0%)	27.1%																																					
否定的意見	(2020年度 7.9%)	4.4%	(2019年度 14.7%)	11.1%																																					

※各項目における「肯定的意見」、「中間的意見」、「否定的意見」のパーセンテージは、少数点第2位を四捨五入していることから100%にならない場合があります。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導	<p>(1) 全教員は教科の時間に責任を持ち、担任との連携を密にする。</p> <p>(2) 授業やHRなどでの私語や居眠り、立ち歩き等の妨害行為は、他の生徒の学習権への侵害であることを理解させ、授業規律確立に向けた指導を行う。</p> <p>(3) 全教員は常に自らの授業実践を相対化し、主体的・対話的で深い、魅力的な学びの機会となるよう研鑽を重ね、授業改善に取り組む。</p> <p>(4) 基礎学力の定着と向上を図るため、必要とされる生徒への補習体制を強化し一定の基準を満たさない場合は必須の補習を実施する。</p> <p>(5) 生活と学びを通して生徒の共同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。</p> <p>(6) 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力量の向上に努める。</p> <p>(7) 英語検定・漢字検定・簿記検定など各種検定の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員への指導・周知を徹底 ・各教科担当への指導の徹底 ・各担任が生徒・保護者への周知 ・公開授業と授業参観の実施 ・官制・民間の実施する教員向け研修会への積極的参加呼びかけ ・欠点者補習の定期実施 ・外部講師による放課後学習 ・自習室の確保 ・生徒からの質問や個別学習 ・百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録に関わるポスターセッション、大和川水質調査 ・各コース・委員会の会議実施 ・漢字検定 ・英語検定に対する放課後セミナー 	<p>適宜実施</p> <p>各学期後欠点者補習を約3日間実施・放課後学習等は常時実施</p>	<p>(1) 従来の出張・休暇等のみならず、教員のコロナに係わる突発的な休暇（本人や家族の発熱・家族の罹患等）にも対応し、授業の遅れが生じないように、教務部、各教科主任と連携して授業変更や、教科内で自習課題準備や代替授業などで対応し、安直な自習時間や授業の遅滞が起こらないようにした。学習指導に関する質問には生徒からの肯定的回答がいずれも前年比10%近く上昇しており、取り組みが生徒にも浸透してきていることがうかがえる。</p> <p>(2) 授業規律確立に向けた指導と、「わかるよろこび」を実感できる授業づくりは同時に追求すべき課題である。時間講師含めた授業の様子や指導を教科内で共有し、学習に向き合おうとしない生徒に有効な指導方法を模索し改善策を講じた。一方で各教員の授業力向上について教科内でも熟考し実践に努めている。</p> <p>(3) コロナ禍で授業参観は実施できなかったが、教務部が各教科の公開授業時間割を工夫し、参観した教員からアンケートの提出を求め、教科会議の場で意見交換や授業分析・検討などを行うよう促した。今後は1学期に実施される公開授業は各教科1名による研究授業スタイルに教科会議を積極的に活用し、教員間で授業の状況を率直に出し合い、授業成立と活性化など改善のために何が必要か討議する機会としたい。藤井寺中学校の公開授業研究会には2名の教員が参加し、中学校のICT教育の状況を把握し、教科で共有し高校教育に役立てている。</p> <p>(4) 全国一斉休校の関係で学習の進度・速度に不安を持つ生徒に対しての手厚い指導を通常授業・補習授業を通じて行った。補習については、感染防止対策の観点から、教務部が科目配当単位数に応じた時間数を算出し、教科の要望も加えながら時間割を作成し、教科担当者と担任が対象生徒・保護者に周知を図った。欠点者補習は取り組みも3年目を迎え、生徒の間にも「次につながる学びの機会」「わかる機会」であることが認知され、参加率も高く、次の学期に向けて苦手教科の克服に役立った。</p> <p>(5) 総合的な探究の時間を活用して、地域と結んだテーマ設定を行い、地域と社会系統・言語と文化系統は百舌鳥古市古墳群について学習研究し、グループセッションを行った。また、理数科学系統は藤井寺を流れる1級河川・大和川に関する水質調査を行い、地元の課題にこたえる取り組みを通して、地域で生きていく市民的自覚と役割を体感する機会となった。</p> <p>(6) 調理製菓科はコース長が、普通科3コースは各コース長が中心になり、管理職もサポートする中で新カリキュラム策定、授業内容の検討、公開授業等を行った。</p> <p>(7) 文理ハイレベルコースでは科目授業として設置し、その他の学科・コースでは、外部講師による準2級、2級対象放課後学習講座「英検セミナー」を開講している。文理ハイレベルコース以外のコース生徒にも、教科や担任から繰り返し英検の重要性について説明し、その意義は浸透してきている。3年生が推薦入試等で生かせる第1回目が臨時休校となり、準会場として使用できなくなったが、事務室とも話し合いを重ね、受験できるように配慮を行った。外部講師による「英検セミナー」については、検定合格に向けて貴重な学習の機会であることを一層周知していきたい。</p> <p>・漢字検定結果 2級：受験者数23名 合格者数5名（合格率21.7%） 準2級：受験者数121名 合格者数15名（合格率12.4%） 3級：受験者数195名 合格者数35名（合格率17.9%） 4級：受験者数48名 合格者数15名（合格率31.3%）</p> <p>・英語検定結果 準1級：受験者数2名 合格者数1名（合格率50%） 2級：受験者数29名 合格者数1名（合格率3.4%） 準2級：受験者数70名 合格者数10名（合格率14.3%） 3級：受験者数37名 合格者数16名（合格率43.2%）</p>

生活指導	<p>(1) 生徒一人ひとりがかげがえのない存在と認識し、分掌・学年・担任・顧問などが連携を深め、重層的で粘り強い指導を行う。適宜、校長・副校長・教頭に情報伝達し、組織として有効的な改善策を早期に講じる。</p>	管理職、各学年、保健室、カウンセラー、治療機関などとの連携	毎日実施	(1) 全国一斉臨時休校明けの分散登校時にはエントランスで全教員による検温と手指消毒、あいさつと声かけを行い、不安を抱えて登校する生徒たちを励ました。毎朝の校門指導を教員4名と教頭も参加し、積極的にコミュニケーションを図っている。登校時にマスク着用で見えづらくはあるが、生徒の反応や表情を丁寧に複眼的に観察し、担任や教科担当と共有することで欠席や遅刻の原因ともなる生徒の心身の状況を把握し、家庭や中学校とも連携して指導を行うように努めた。
	<p>(2) 遅刻や欠席が多い生徒については、生活の背景を含めて原因を分析し、保護者と協力・連携して克服につなげていく。また、必要に応じて相談センターなど公的機関とも連携し、サポートを行う。</p>		毎週実施	(2) (4) 毎週、不登校生等委員会（管理職、養護教諭、カウンセラー、各学年担当）を開催し、不登校傾向のある生徒のみならず、疾患を抱える生徒、LGBTQなどで生きづらさを抱える生徒、「気にかかる生徒」の状況について各学年と保健室、カウンセラーから詳細に報告し、情報共有を図った。コロナ禍で経済的な困窮が深刻さを増し、複雑な家庭環境を背景に、孤立している生徒が増える中、そうした精神的な不安定さが身体的不調となって現れるケースが目立った。担任・養護教諭が家庭と連携を取り、必要に応じてカウンセリングや専門医による治療も視野に入れながら対応した。
	<p>(3) 服装や頭髪・化粧など校則違反生徒に対しては、全教員が校則遵守の意義を粘り強く説き、理解と納得を得られるよう努める。教員によって指導の基準や熱心さに差が出ないように生活指導部教員だけでなく全教職員が生活指導を行う。</p>		適宜実施	(3) 各学期初めの頭髪・身嗜み指導など、学年集会やLHRの時間を通じて生活指導部、担任が連携して指導方針や校則について繰り返し必要性を説明し、保護者にも連絡を取りあい協力を依頼してきた。その結果、生徒の肯定的回答が大きく上昇し、一方で否定的評価が3分の1に減少しており、理解が進んできていることがわかる。今後も、生徒たちの自律・自立的な姿勢を育むために、生徒の内面に届く言葉、響く指導を構築していきたい。髪型や髪色、化粧・装飾具など課題は克服されたわけではないが、指導を受ける生徒の対応に変化はみられている。
	<p>(4) 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、家庭とも連携しその発達課題に応じた丁寧な指導を行う。</p>		各学期適宜実施	(5) 年度初めの「初めて担任に取り組むあなたへ講座」は若い教員のみならず、学年主任やベテラン、管理職も含め10数人が参加し、従来の一方的な講演会型ではなく、前年度の初担任の取り組みも交えて、対話的に取り組まれた。時間的な制約もあり、コロナ禍という接触制限の多い出会いに向けて生徒を迎え入れる準備を充実したものに変える役割は果たしていた。一方で、それ以降のクラス集団作りを見通した話まで及んでいない。そのため「イベント・思い出作り」ではない本来の行事づくりの意義・目的は十分認識されていない傾向がみられる。「文化祭づくり」は開催時期も設定がむづかしく、「担任講座」に比べて参加者も少なく、行事づくりへの理解の弱さが参加者数とその後の取り組みに表れている。
	<p>(5) 学校行事などを活性化させ、生徒たちの自治的活動を通して、生徒一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。</p>			

<p>教員研修</p>	<p>(1) 男女共学での教育・指導方法について日々の実践を通じて検証し、新しい本校教育の確立をめざす。</p> <p>(2) 研修・研究会に参加し、教育力・指導力を高める。本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会も開催する。</p> <p>(3) 各コースは、目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努めるため、PDCA を学期毎に策定する。定期的なコース会議で確認し、成果と課題の確認を行う。</p> <p>(4) 公開授業や授業参観・授業アンケートを実施し、教科会議などで現状把握・分析・検討を行い、教育内容をより充実したものへと改善・充実・発展を図る。</p> <p>(5) 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努める。</p> <p>(6) 図書館の大改革を行い、生徒たちが行って楽しい・本好きになる創造の場へと変容させる。また、地域貢献の一環として絵本広場の定期的な開放や保育系進学コースの実習の場にも活用できるように検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・系列高校との学習・交流・見学 ・校内での講座・研修会実施 ・官制・民間の各種教育研究会・教員研修会への参加案内と促進 ・3 高校合同教員研修会の実施 ・各教員の公開授業 ・校内教員研修会の実施 ・生活指導部と連携して図書委員会活性化 	<p>(1) コロナ禍で系列高校（大阪商業大学高校、大阪商業大学堺高校）すべての教育活動に参加は出来なかった。また、3 高校合同教員研修会は開催できなかったが、コロナ関連の授業形態や進め方などについて、様々な機会に系列高校と連携して、本校の実態に即した教育のあり方、指導方法について学んできた。</p> <p>(2) 「わかりやすい授業が行われている」「生徒の基礎学力の定着と向上を図るように授業を工夫し、補習や個別指導が行われている」などの設問について生徒の肯定的回答が飛躍的に増え、コロナ禍で生徒の基礎学力定着と向上に向けた真摯な取り組みが評価につながっている。リモート型も含めた研修会参加、公開授業を積極的に活用し、各教科会議で研究授業の実践分析と検討を行える体制を構築した。校内研修会では、企画広報部による本校の各学科・コースの目標や特徴、新系統の説明、スポーツ特待生、クラブ奨学生制度の変更点などの説明があった。また、教務部による新学習要領施行に伴うカリキュラム改訂に向けて、その趣旨や注意事項について説明と質疑、教科ごとの分散討議などを行った。</p> <p>(3) (4) コロナによる全国一斉臨時休校の影響で公開授業は秋のみの実施となった。これまで各教員が春・秋期の一定期間に公開授業を実施し、他教員の授業を見学する形式で毎年継続的に実施してきた。以前から授業がバツティングしていて参観者が少なく、教材や授業案も作成されない場合もあり、参観者の感想が得られないなどの課題があった。そこで、教科会議で授業アンケートを集团的に分析・検討を行い、全体として授業力の向上に取り組んだ。その結果が関連する設問に対する 70%超もの肯定的回答につながっている。</p> <p>コロナ禍が一定落ちついてきた2 学期当初、実施できなかった授業の代替企画として中学校からの「出前授業」や「受け入れ授業」の要請があった。オープンスクールも含め若手教員も模擬授業づくりに取り組み、公開授業と合わせて、自らの実践を相対化する機会となり、授業スキル向上につながった。</p> <p>(5) アンケート結果を学校評価委員会で分析・検討し、課題を明確にした上で翌年度の取り組みに反映させた。</p> <p>(6) 管理職を含む図書館委員会を開催し、図書館任せになっていた選書方法を大幅に見直し、各学年・教科・コース・委員会などから多層的に購入図書要望を募ったことで、現在の学科、コースの学びにマッチした選書が行えた。さらに、学校図書館向けの選書用パンフレットを図書委員メンバーで回覧し、独自に購入図書を選ぶなど現場の声を反映することができた。なお、生活指導を通じて、図書委員（生徒）にも選書してもらい、おすすめの本をポップ付きで紹介する等の取り組みを図書館で行った。保育系進学コースの生徒たちが絵本の読み聞かせを地域の親子 19 組 41 名に行い、盛況であり、地域貢献にもつながった。</p>
-------------	--	---	--

進路指導	<p>(1) 生徒が自分自身の希望と適性、能力を把握し、「なりたい自分」に向けて具体的な進路選択が可能となるよう早期からサポートを行う。</p> <p>(2) 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>(3) 系列大学との高大連携を進めるため、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。</p> <p>(4) 指定校推薦の充実を図れるよう大学・短大・専門学校との個別連携を深める。</p> <p>(5) 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実に努める。</p> <p>(6) 調理製菓科では現場のシェフやパティシエ・パティシエールを招いた授業を取り入れ、インターシップなどの参加を積極的に促し、ホテル・レストラン等と連携しながら生徒たちのキャリア育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」やLHR を利用し、「なりたいジブン」に向けた大学・短大・専門学校の違いと選び方、学部学科選定、入試制度について周知 ・学長講演や大阪商業大学教授による「ビジネスアイデア甲子園」講義 ・4年制大学・短期大学を・専門学校・就職 ・協定校・指定校について ・入試方法変更について ・閲覧しやすいファイルにまとめる 		<p>(1) 総合的な探究の時間において、進路ガイダンス・学部学科を調べよう・系列大学説明会など様々なテーマを通じて進路に対する知識と意識を向上させた。また、2月下旬に初めて各コース別に卒業した3年生に来校を依頼し、龍谷大学、関西医療大学、関西外国語大学、堺看護専門学校など進学組だけでなく、フランシーズ、ホテル日航大阪など就職した先輩から生徒対象に体験談を語ってもらう機会を設けた。生徒たちは予想以上にメモをとって聞き入り、活発な質疑が交わされた。卒業生のわかりやすく丁寧な答弁に、進路に向けて意識を高める機会となった。</p> <p>(2) 今年度は共学化1期生であり、調理製菓科と文理ハイレベルコースによって、初めての進路対応となった。調理師、製菓衛生師の資格を活かしてホテルやレストラン、洋菓子店等に就職する生徒が半数近くをしめた。就職先開拓に当たって調理製菓科の先生方のつながり等を活かし尽力していただいた。4年制大学へのべ67名・36.7%（前年度43%）の生徒が合格し、54名が入学した。就職や専門学校への進学が多い調理製菓科の卒業生が出た影響もあり、四年制大学進学率は前年度をやや下回っている。昨年度と同様に、学力試験や本格的な小論文を課すA0・公募推薦・専門学科推薦・一般入試・大学入試共通テストなどに挑み「入れる大学」よりも「入りたい大学」を希望する生徒が増加し、教科・担任が粘り強く個別指導にあたった。短期大学17名・14.3%（前年度21.5%）、専門学校には45名・29.9%（前年度26.6%）の生徒が進学した。専門学校は従来から多かった看護医療系分野に加え、さらに技術の向上を図るべく、調理・製菓系専門学校への進学者が目立った。</p> <p>(3) 高大接続授業で系列大学の大阪商業大学から学長を招聘して講演会、柔軟な思考で商機を見だし、起業などにつなげる発想等について講義していただき、系列大学で学ぶ魅力を確認できた結果、進学者はここ数年では最も多い4名となった。進学では特別連携協定校であるエコール辻などの専門学校、大阪夕陽丘学園短期大学や大阪樟蔭女子大学などに進み、栄養士、管理栄養士をめざす生徒が多かった。</p> <p>(4) 指定校に関しては、職員室前に掲示し、新着情報を更新した。3年生のみならず、1、2年生が足を止め話題にする機会も増え、進路意識向上の機会ともなった。法人関係者の協力も得て、新たに大阪電気通信大学、関西福祉科学大学、関西女子短期大学、辻調理師専門学校と協定を結び、さらに多様な選択肢を示すことが出来た。4年制大学では協定校・指定校推薦（36.8%）、公募推薦・総合型選抜（48.5%）であり、短期大学では100%が協定校・指定校推薦であった。4年制大学では「行きたい大学・学部」に進学するため公募・総合型に挑戦する傾向が強まっている。また、専門学校に関して指定校推薦（18.2%）、A0入試（68.2%）、公募制推薦（13.6%）、一般入試（4.5%）となっており、看護医療系を中心に粘り強く受験する生徒が増加している。指定校・協定校による推薦入試を軸としつつ、学力等で受験する生徒への夏期補習が実施されたほか、個別的・継続的な指導で合格へと導いた。</p> <p>(5) (6) 求人票を業種別にファイルにまとめ、進路指導部・担任で繰り返し丁寧な面接指導を行い、希望者は全員就職を果たすことができた。今年度の就職は23名・（15.6%、前年度8.9%）であった。なお、就職者は内定後に2名が辞退しており、求人票が届いてから始まる短期間ではあるが、企業訪問を含め、生徒の希望と企業とのマッチングを丁寧に図る必要がある。</p>
	その他	<p>(1) 保護者会との連携をさらに強化し、保護者からの貴重な意見を教育・指導・広報に役立てていく。</p> <p>(2) 美化につながる方策を教職員と生徒で熟考し、あらたな取り組みを実践していく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会との協力と連携 ・環境美化活動を企画・実施 ・美化意識の向上 ・教育環境づくりの意識涵養 	<p>年複数回実施</p> <p>学校全体で行う定期的な清掃活動の実施</p>

<p>(3) 防犯、新型コロナウイルス感染防止などへの対応を含めた健康管理に繋がる対策をさらに講じていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会 ・緊急支援物資の購入 	<p>適宜購入</p>	<p>(3) 新型コロナウイルス感染対策は手指洗浄と消毒、マスク着用、フィジカルディスタンス、検温と健康観察カードの提出など、考え得る限りの対応を実施した。大阪府内の各高校でクラスターが発生する中、本校は極小の感染者が発生したものの、全体としては健闘し、一度も臨時休校等で学びを止めることがなかった。コロナ禍で避難訓練は実施できなかったが、7月には地元消防署の協力を得て教員対象 AED 講習会を実施し、救急救命の基本を学んだ。対面型の講演会について例年どおりの実施は難しかったが、DVD や別教室への配信など感染防止対策を施し、ネットトラブル防止に向けて、自転車安全運転、性教育、薬物乱用防止などの各種講演会を行い学習の機会を持った。</p>
<p>(4) 教職員の健康保全・危機管理対策について常に留意しながら、適正に運用していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会等の実施 	<p>年数回実施</p>	<p>(4) 警備員、事務室を交えて危機管理について共有した。学校周辺の駐停車や騒音による近隣トラブルに関しては教頭が中心に情報共有を図り、一貫した対応策を構築し、信頼関係を築き、苦情件数は減少している。募集イベント、公開行事などの際に警備体制の強化について、管理職を中心に協議し全教職員で実行した。</p>
<p>(5) より多くの教育的期待に応え、募集定員充足を果たすために、将来構想を充実して行い、教職員の知恵と協力を結集させて新系統を早期に構想し、実現に結び付けていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議での議事録の閲覧による問題意識の共有化 ・必要に応じて管理職が各分掌会議等に参加 	<p>適宜実施</p>	<p>(5) 食品をめぐる産地偽装や添加物、廃棄ロスなど国内の安心安全な食品を求める国民的な関心の高まりに呼応する「食と農マネジメント系統」を新設し、募集活動の魅力の柱として打ち出した。また、令和4年度入学生から定員が300名になることに合わせて、系列大学との繋がりを活かした「ビジネスと情報系統」を構想し、大学関係者と意見交流を図るなど具体化に着手した。</p>

学校関係者会議 懇談会議事録

日 時：令和 3 年 10 月 15 日（金）12 時 30 分～14 時 40 分

場 所：事務棟 3 階 第一会議室

出席者：藤井寺市教育長、藤井寺市区長会会長、春日丘自治会会長、辛國神社宮司
校長、副校長、校長補佐、教頭、事務長

○自己紹介

学校関係者会議出席者より自己紹介をいただく。

○校長挨拶

本日ご参集いただいたことに対する御礼と、本校の新たな学校作り等について様々な観点からご意見をいただきたいと述べられた。

○資料「令和 2 年度 大阪緑涼高等学校 学校評価」に基づき、副校長より以下の報告が行われた。

1. 目指す学校像

資料をもとに以下 7 項目について詳細に説明された。

- (1) 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
- (2) 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
- (3) 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
- (4) HR 活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
- (5) 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
- (6) 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
- (7) 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校

2. 中期目標

副校長より、目指す学校像に基づき、具体化したものを中期目標として示していると述べられ、以下の内容について説明された。

(1) 学習指導

①「教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている」について、2019 年度肯定的意見は生徒 61.1%、保護者 65.6%であったが、2020 年度肯定的意見 生徒 70.0% 保護者 71.2%と向上した。コロナ禍による休校等例年と違う状況の中、生徒の相談に丁寧に応じていることが評価いただけた結果と考えられると説明がなされた。

②「教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている」に対しては、2019 年度肯定的意見は生徒においては 55.8%であったが、2020 年度肯定的意見 生徒 69.5%と向上した。コロナ禍によって家庭送付を

行った学習課題でも単純作業的な課題ではなく、生徒に本当に学んでほしいことは何かを教え、工夫したことで質的に良いものが用意できた。学校再開までの間は、手紙や電話で双方向に連絡を取り丁寧に相談に応じた結果であると説明がなされた。

③「教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図るように授業を工夫し、補習や個別指導を行っている」に対し、特に1年生で肯定的意見が高かったのは中学校で習熟できなかった学びを丁寧に進めていったことが表れている。長期化するコロナ禍において生徒の学ぶ機会と生徒にあった指導内容をどう保証していくか検討を続ける必要があると説明がなされた。

④「教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している」については、生徒・保護者ともに肯定的意見が向上した。全コースにわたって各種検定取得の優位性が周知された結果、受験者数が大幅に増えており、準1級合格者も1名輩出できた。今後は合格率を高め、指導内容の共有化を図り、質的向上を図っていきたいと説明がなされた。

(2) 生活指導

①「入学してよかった・させてよかった」については、3年生において肯定的意見78.3%であり、コロナ禍で大変だったが卒業時には入学してよかったと思ってもらえている。1年生についてもコロナ禍で入学式が実施できない中、新入生のつどいを行った。1年生を歓迎したい、一人ひとりを大事に思っている気持ちが伝わったのかなと感じていると説明がなされた。

②「学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している」については、コロナ禍で心が折れる生徒も中にはいた。そういった生徒を支えていきたいという思いで、保健室・カウンセラーと緊密な連携を重ね、より親身で手厚いサポートを行ってきたと説明がなされた。

③「教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している」については、2019年度肯定的意見は生徒においては58.4%であったが、2020年度肯定的意見 生徒65.8%と向上した。コロナ禍でマスク着用となり表情が見えなくて気持ちがわからない、しゃべってはいけない、友人を作るのが難しいような状況の中で「誰も取り残さないクラス」づくりに向けた教員と生徒のつながり、生徒相互の関わりあいを作るための目当てと手だてについて、継続的に研修会等で学ぶ必要があると説明がなされた。

④「緑涼祭や弁論・コーラス大会、修学旅行、校外学習、課外活動等、学校生活は楽しく充実している」については、生徒においては充実した結果となっている。コロナ禍で保護者が参加できていないが、参加している生徒のポイントは高い結果となったと説明がなされた。

⑤「教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している」については、クラブ活動等において今のところクラスターは発生していない。コロナ禍での活動制限や徹底した感染症対策に取り組んだことで、生徒からの肯定的回答はむしろ前年よりも増えていると説明がなされた。

⑥「学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている」については、過剰なピアス等の装飾具は「おしゃれをしたい」だけではなく、自傷行為の一種と考えられる。教員に注意され会話をする中で、何か気づいてほしい、気にかけてくれる大人を求めているサインとも考えられるため、その背景を考えていくことが大切と説明がなされた。

⑦「学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている」については、去年に比べ肯定的意見が増えている。一週間に一度の不登校生等委員会にてその萌芽に気づき適切な手立てをとることで対応している。

⑧「学校は、人権について生徒の意識が高まるように講演会や日々の教育を通じて指導している」については、平和・ジェンダー・人権等について各界で活躍されている外部講師を招き、講演いただいております、そのことが生徒に伝わっていると説明がなされた。

(3) 教員研修

①「学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている」については、感染対策の観点から校内放送や学年別分散開催という制約はあったものの始業式や終業式等での校長講和を通じ教育の根幹を伝えており、肯定的意見も上がってきていることから、成果が少しずつ上がってきていると説明がなされた。

(4) 進路指導

①「教員は、進路について、総合的な探究の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している」については、肯定的意見が高くなっており進路について誰かに支えられている実感があることが結果に出ている。自分自身が何をしたいのか・何ができるのかを主体的に見つけられるよう今後も進路情報を細かく提供、相談に応じ希望進路の実現に向けて取り組んでいくと説明がなされた。

(5) その他

①「学校は学年通信やお便り、谷学ネット、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている」については、生徒及び保護者の肯定的意見が増えており、学級通信・学年通信・お便りだけでなく、ホームページや谷学ネットを活用し、コロナ関連による緊急連絡・学校生活の様子等を発信してきた結果で

あると説明がなされた。

②「学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決める等、高校生活に支障がないように配慮している」については、四季を感じられる学校で木々も多く、毎日清掃スタッフの落ち葉を掃除する姿や校舎を掃除する姿をみているからか古い校舎を大切に使うという「思いやりと礼節」の意識がある。クラブ活動等の時間についてはもっと長く活動したいとの声もあったが、大阪府のコロナ対策の指針に基づき決められた時間の中で活動していると説明がなされた。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

副校長より、以下の内容について説明がなされた。

(1) 学習指導

・藤井寺中学校の公開授業研究会に2名の教員が参加させていただき、中学校のICT教育の状況を見て刺激を受け、教科で共有し高校教育に役立てていきたいと説明がなされた。

・多くの生徒が南河内及び中河内南部から通っている。百舌鳥古市古墳群の学習研究や大和川の水質調査等地元の課題にこたえる取り組みを通して、将来南河内を支えてくれる生徒を育てていきたいと説明がなされた。

(2) 生活指導

・気にかかる生徒に関して教員間で情報共有をおこない、教育と福祉とが協力しなければならぬ場面があったと報告がなされた。

・「初めて担任に取り組むあなたへ」講座は若い先生のみならず学年主任やベテラン、管理職も含め多数参加している。若い先生が増えたことで、ベテランだけでは生まれない緊張感や成長があると説明がなされた。

(3) 教員研修

・保育系進学コースの生徒が行った絵本の読み聞かせでは地域の親子が多数参加し地域に貢献していると説明がなされた。

(4) 進路指導

・4年制大学へ67名が合格し54名が入学した。「入れる大学」よりも「入りたい大学」を希望する生徒が増加し担任が粘り強く個別指導にあたったと説明がなされた。

・専門職に進んだ先輩から体験談を語ってもらう機会を設けた。生徒は予想以上に熱心に聞き取り活発な質疑が交わされた。進路に向けて意識を高める機会となったと説明がなされた。

(5) その他

・入学定員を充足した。次年度は定員を増やすことになっている。普通科総合進学コ

ースに「食と農マネジメント系統」も開始するので南河内で作ったもの等生産者とのつながりを作っていくと説明がなされた。

副校長からの説明終了後、学校関係者委員より、次のとおり質問・感想が述べられ、本校管理職と意見交換を行った。

質問……緑豊かな環境を維持しているのは大変。この緑の環境を敬愛している。いじめはありませんか。

回答……「ふざけ」からお互い感じ方が違って問題が起こることもあるが、話し合いを通して誤解が解けたりお互いを理解しあったりするようになってきている。教員がいじめアンケート等で把握している中でいじめはないし、いじめが原因で登校ができないという生徒もいない状況です。

意見……共学になって変わったことはありますか。

回答……男子が入学してきたらどんな感じになるのか、暴力があるのか心配していたが、おとなしい男子が多く女子に合わせていく傾向があります。清掃の方にも男子生徒がよく挨拶しお礼を言うと度々お褒めいただき、安心しています。

質問……入試の時に多くの受験生が入っていくのを見て、とても人気のある高校なのだと感じていた。全体的に明るくなったように感じる。自治会も安心しています。校舎の裏側の住民から音に関する苦情を聞いたことがありますが、その後どうでしょうか。

回答……二重窓にして苦情は減りました。今後も丁寧に対応して参ります。以前より理解していただいていると感じています。

質問……肯定的な意見が全ての項目に渡って増えています。コロナ禍で教員が本来あるべき教育の姿を考えて挑戦している結果だと感じる。反対に先生方はストレスがかなりあるのではないのでしょうか。何かケアされていますか。

回答……職員室の休憩室を整備し、有給休暇も年間5日以上取得するよう周知している。メリハリをつけている。現在、心身不調等で長期休んでいる教員はいないです。クラブ活動でもバレー部は強豪校でありながら大阪府のコロナ対応通知を守りつつメリハリをつけて部活動を行っています。働く時間が伸びないように、孤立する教員がいないように支えあっています。

質問……コロナ禍で「授業料が払えません」という話を聞きますが、そういった話はありませんか。

すか。

回答……コロナの影響で収入が減ったという話がありました。学費を支払えないご家庭は、支援金の相殺方法を変更する等の対応を行いました。

質問……授業料を返してほしいとかありましたか。

回答……大学はオンライン授業をされていてそういった声が出ていると思うのですが、高校では対策をして授業を行ってもよいとなっています。そういった声は出ておりません。

意見……公開しなければならない時代背景があるが、いい方向に学校評価を使っていかなーといけないと思います。ぜひこの結果を学校経営者に見せていただいて開かれた教育課程や学校の考え方を地域の方や生徒の家庭にわかってもらい、学校と一緒に作っていきましょうというコミュニケーションツールとして活用してほしい。「緑涼」に校名変更されたときには新学習指導要領ができてきたころかと思います。どんな子どもになってほしいか、指示待ちではなく自分からやりたいと言える子どもを育ててほしい。正解を探すのではなく自分で考え判断させる教育をお願いしたい。

質問……定員数を増やすのは勇気がいったのではないのでしょうか？

回答……地域の方を中心に本校の教育・指導が手厚いということが浸透してきております。新システムを作る等改革も進めつつ300名に近づけていけたらと思っています。

意見……入れる大学から入りたい大学へ希望する生徒が行けるように指導しているという事は非常に良いことである。

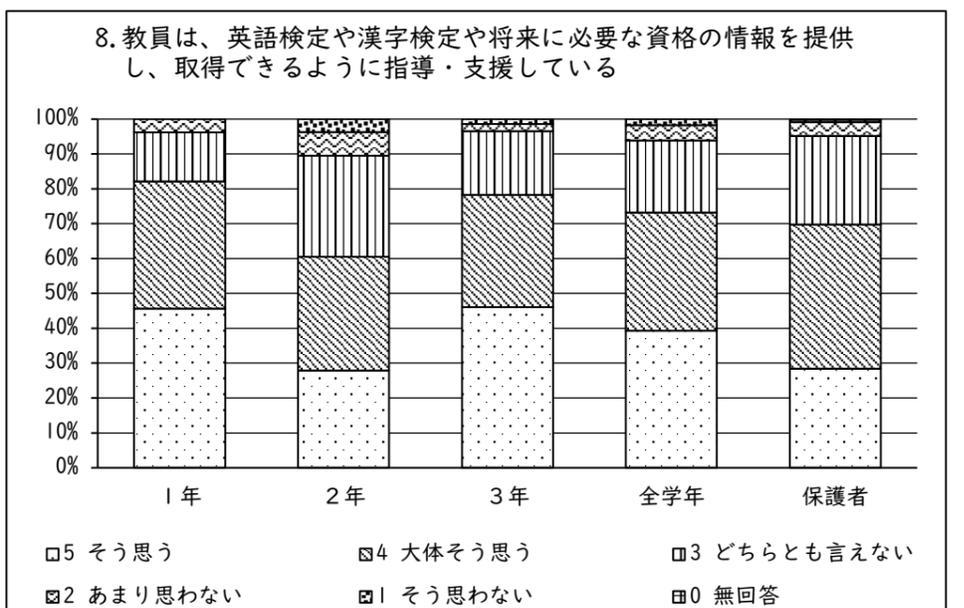
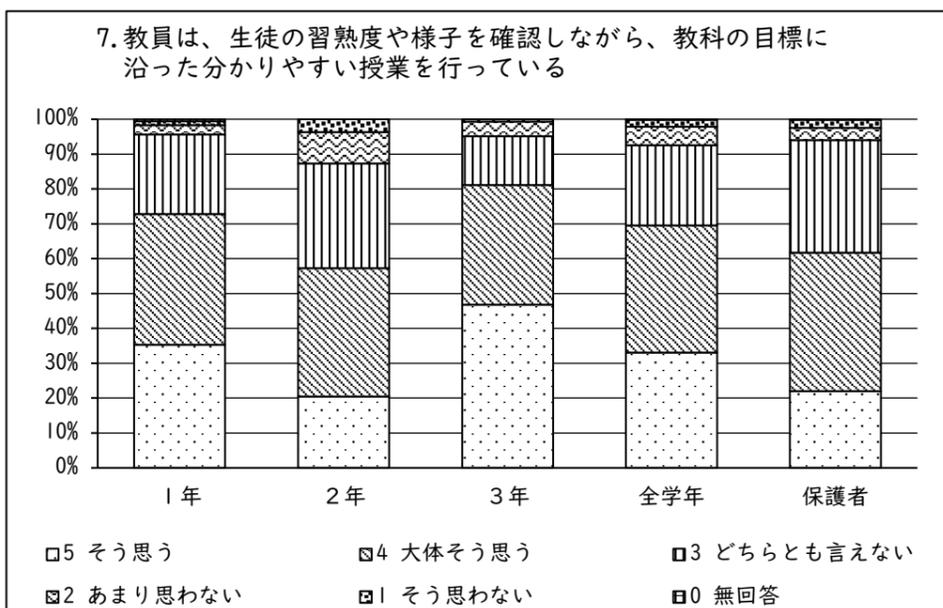
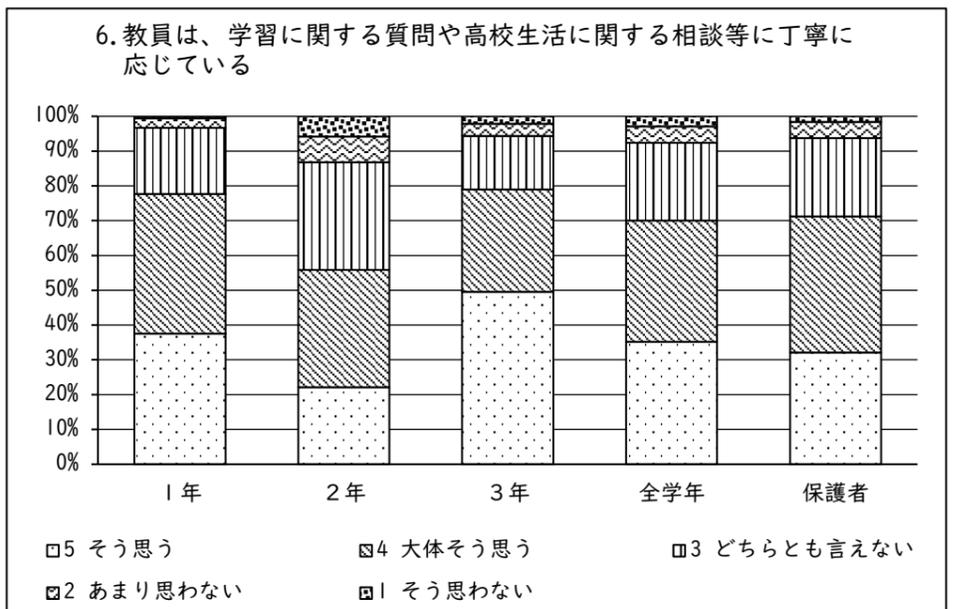
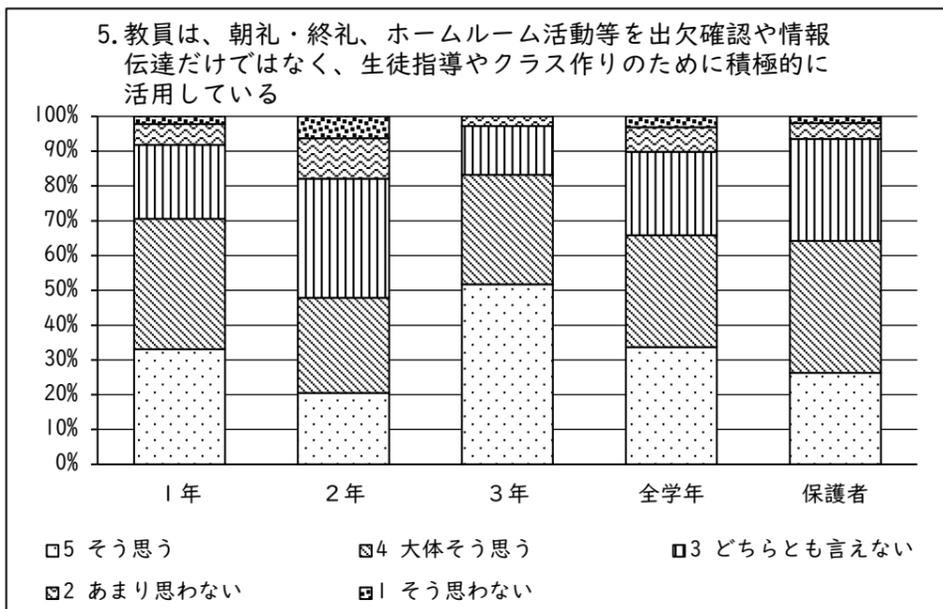
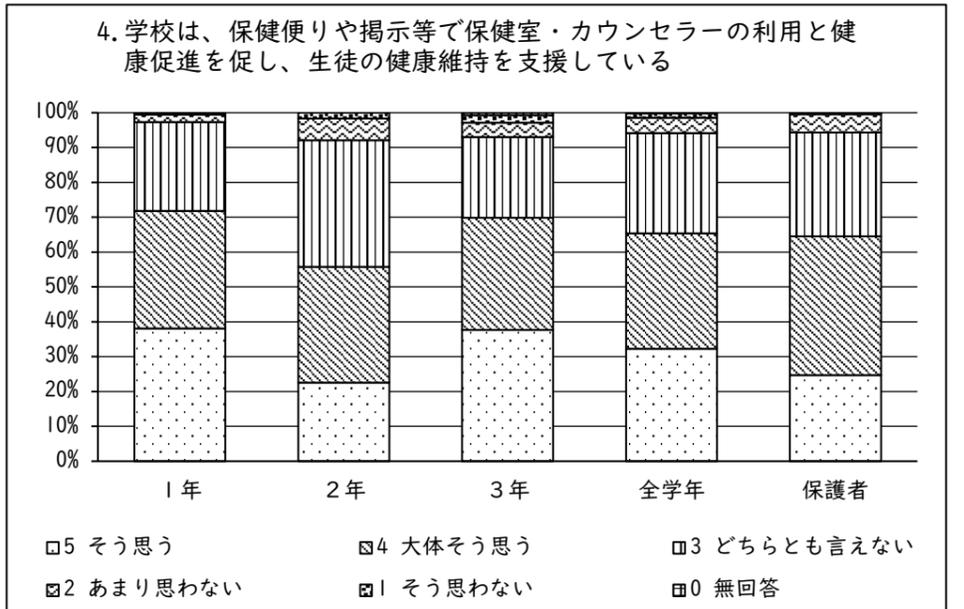
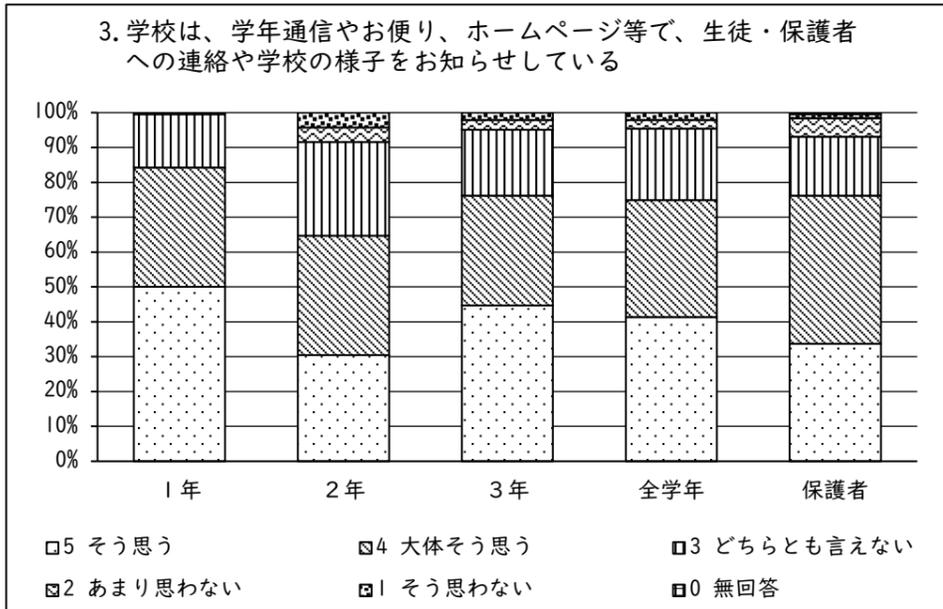
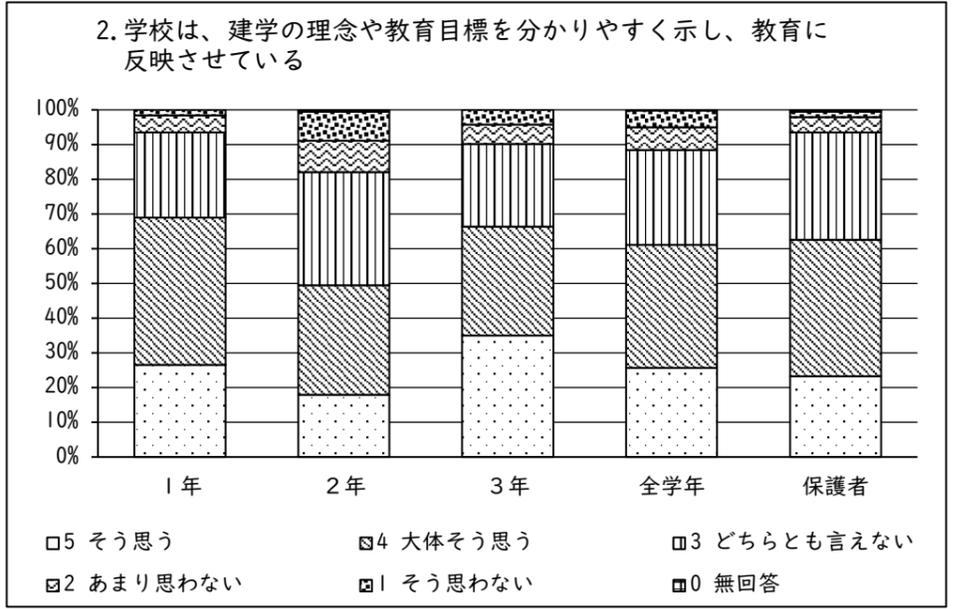
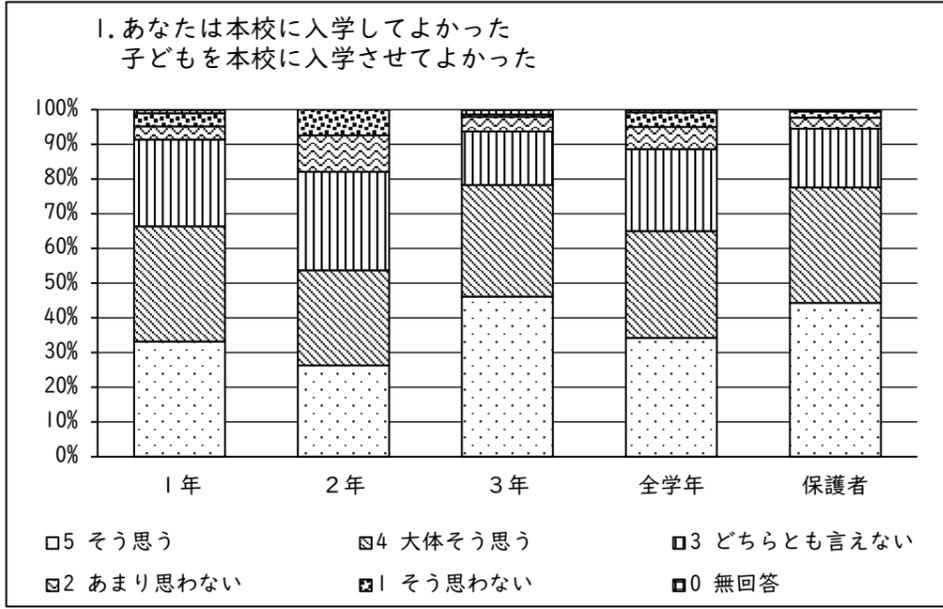
意見交換終了後、校長より挨拶の言葉が述べられた。

多くの意見をありがとうございました。地域に根差した、地域があつてこそその大阪緑涼高等学校です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

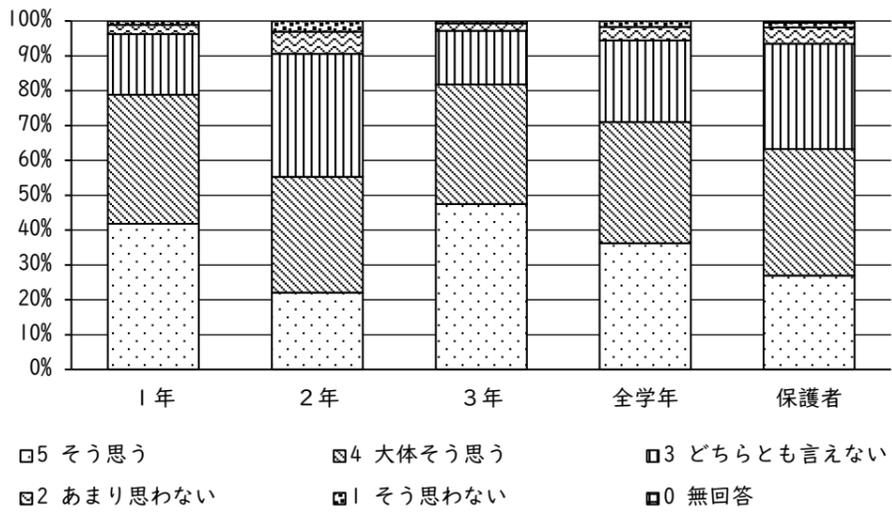
以上

2020年度 学校評価アンケート集計（設問は、保護者向けのものを使用しています）

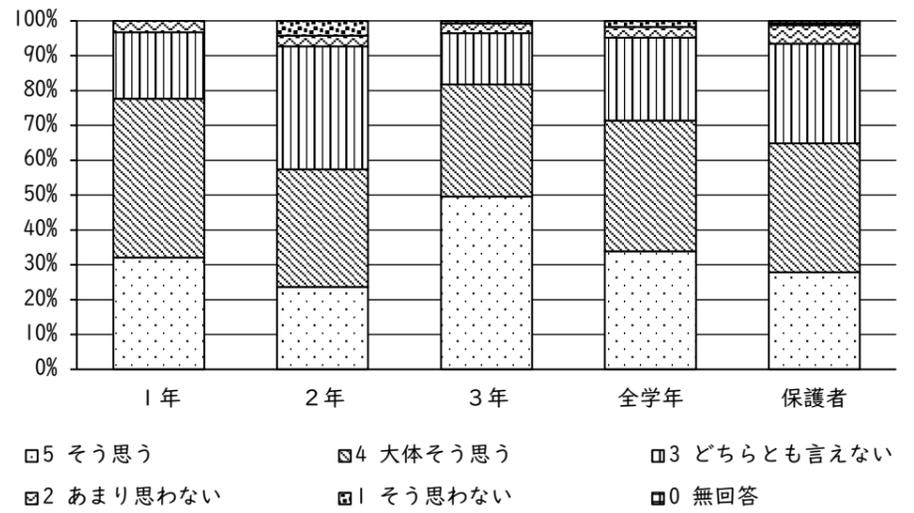
設問	学年	5	4	3	2	1	0	－	＋	
		そう思う	大体そう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	そう思わない	無回答			
1	あなたは本校に入学してよかった	1年	33.2%	33.2%	25.0%	3.8%	3.8%	1.0%	7.6%	66.4%
	2年	26.3%	27.4%	28.4%	10.5%	7.4%	0.0%	17.9%	53.7%	
	子どもを本校に入学させてよかった	3年	46.1%	32.2%	15.4%	4.2%	0.7%	1.4%	4.9%	78.3%
	全学年	34.2%	30.8%	23.6%	6.4%	4.2%	0.8%	10.6%	65.0%	
2	学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている	保護者	44.3%	33.3%	16.9%	3.2%	1.8%	0.5%	5.0%	77.6%
		1年	26.6%	42.4%	24.5%	4.9%	1.6%	0.0%	6.5%	69.0%
		2年	17.9%	31.6%	32.6%	9.0%	8.4%	0.5%	17.4%	49.5%
		3年	35.0%	31.4%	23.8%	5.6%	4.2%	0.0%	9.8%	66.4%
3	学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている	全学年	25.7%	35.4%	27.3%	6.6%	4.8%	0.2%	11.4%	61.1%
		保護者	23.3%	39.3%	30.9%	4.4%	1.6%	0.5%	6.0%	62.6%
4	学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	1年	50.0%	34.3%	15.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	84.3%
		2年	30.5%	34.2%	26.9%	4.2%	4.2%	0.0%	8.4%	64.7%
		3年	44.7%	31.5%	18.9%	2.8%	2.1%	0.0%	4.9%	76.2%
		全学年	41.4%	33.5%	20.5%	2.5%	2.1%	0.0%	4.6%	74.9%
5	学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	保護者	33.7%	42.5%	16.9%	5.3%	1.1%	0.5%	6.4%	76.2%
		1年	38.1%	33.7%	25.5%	2.2%	0.5%	0.0%	2.7%	71.8%
6	学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	2年	22.6%	33.2%	36.3%	6.3%	1.6%	0.0%	7.9%	55.8%
		3年	37.7%	32.2%	23.1%	4.2%	2.1%	0.7%	6.3%	69.9%
7	学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	全学年	32.3%	33.1%	28.8%	4.3%	1.3%	0.2%	5.6%	65.4%
		保護者	24.7%	39.8%	29.8%	5.3%	0.2%	0.2%	5.5%	64.5%
8	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	33.1%	37.5%	21.2%	6.0%	2.2%	0.0%	8.2%	70.6%
		2年	20.5%	27.4%	34.2%	11.6%	6.3%	0.0%	17.9%	47.9%
9	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	3年	51.7%	31.5%	14.0%	2.8%	0.0%	0.0%	2.8%	83.2%
		全学年	33.7%	32.1%	24.0%	7.1%	3.1%	0.0%	10.2%	65.8%
10	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	保護者	26.3%	37.9%	29.3%	4.6%	1.9%	0.0%	6.5%	64.2%
		1年	37.5%	40.2%	19.0%	2.7%	0.6%	0.0%	3.3%	77.7%
11	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	2年	22.1%	33.7%	31.0%	7.4%	5.8%	0.0%	13.2%	55.8%
		3年	49.6%	29.4%	15.4%	3.5%	2.1%	0.0%	5.6%	79.0%
12	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	全学年	35.2%	34.8%	22.4%	4.7%	2.9%	0.0%	7.6%	70.0%
		保護者	32.1%	39.1%	22.6%	4.6%	1.6%	0.0%	6.2%	71.2%
13	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	35.3%	37.5%	22.8%	2.7%	1.1%	0.6%	3.8%	72.8%
		2年	20.5%	36.8%	30.0%	9.0%	3.7%	0.0%	12.7%	57.3%
14	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	3年	46.8%	34.3%	14.0%	4.2%	0.7%	0.0%	4.9%	81.1%
		全学年	33.1%	36.4%	23.0%	5.4%	1.9%	0.2%	7.3%	69.5%
15	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	保護者	22.0%	39.7%	32.3%	3.5%	2.3%	0.2%	5.8%	61.7%
		1年	45.7%	36.4%	14.1%	3.8%	0.0%	0.0%	3.8%	82.1%
16	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	2年	27.9%	32.6%	29.0%	6.8%	3.7%	0.0%	10.5%	60.5%
		3年	46.1%	32.2%	18.2%	2.1%	1.4%	0.0%	3.5%	78.3%
17	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	全学年	39.3%	33.9%	20.7%	4.4%	1.7%	0.0%	6.1%	73.2%
		保護者	28.4%	41.4%	25.4%	3.9%	0.7%	0.2%	4.6%	69.8%
18	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	41.8%	37.0%	17.4%	2.7%	1.1%	0.0%	3.8%	78.8%
		2年	22.1%	33.2%	35.3%	6.3%	3.1%	0.0%	9.4%	55.3%
19	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	3年	47.5%	34.3%	15.4%	2.1%	0.7%	0.0%	2.8%	81.8%
		全学年	36.2%	34.8%	23.4%	3.9%	1.7%	0.0%	5.6%	71.0%
20	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	保護者	27.0%	36.3%	30.2%	4.6%	1.4%	0.5%	6.0%	63.3%
		1年	32.1%	45.6%	19.0%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%	77.7%
21	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	2年	23.7%	33.7%	35.3%	3.1%	4.2%	0.0%	7.3%	57.4%
		3年	49.6%	32.2%	14.7%	2.8%	0.7%	0.0%	3.5%	81.8%
22	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	全学年	33.9%	37.5%	23.8%	3.1%	1.7%	0.0%	4.8%	71.4%
		保護者	27.9%	37.0%	28.6%	5.3%	0.5%	0.7%	5.8%	64.9%
23	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	50.0%	28.3%	17.4%	2.7%	1.6%	0.0%	4.3%	78.3%
		2年	27.9%	28.4%	30.0%	8.4%	5.3%	0.0%	13.7%	56.3%
24	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	3年	48.9%	30.8%	18.2%	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%	79.7%
		全学年	41.6%	29.0%	22.3%	4.6%	2.5%	0.0%	7.1%	70.6%
25	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	保護者	35.6%	34.6%	23.8%	4.1%	1.4%	0.5%	5.5%	70.2%
		1年	30.4%	37.0%	26.6%	4.4%	1.6%	0.0%	6.0%	67.4%
26	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	2年	21.0%	29.5%	37.9%	7.4%	3.7%	0.5%	11.1%	50.5%
		3年	46.8%	29.4%	18.2%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	76.2%
27	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	全学年	31.6%	32.1%	28.4%	5.8%	1.9%	0.2%	7.7%	63.7%
		保護者	25.9%	34.9%	30.7%	5.0%	2.3%	1.2%	7.3%	60.8%
28	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	35.3%	28.8%	19.5%	8.2%	8.2%	0.0%	16.4%	64.1%
		2年	15.8%	25.8%	36.3%	7.9%	13.7%	0.5%	21.6%	41.6%
29	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	3年	44.7%	24.5%	19.6%	4.9%	6.3%	0.0%	11.2%	69.2%
		全学年	30.8%	26.5%	25.7%	7.1%	9.7%	0.2%	16.8%	57.3%
30	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	保護者	25.9%	37.4%	26.8%	6.7%	3.0%	0.2%	9.7%	63.3%
		1年	27.7%	32.1%	29.9%	4.3%	6.0%	0.0%	10.3%	59.8%
31	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	2年	20.0%	25.8%	43.2%	3.7%	6.3%	1.1%	10.0%	45.8%
		3年	42.0%	28.6%	21.7%	3.5%	4.2%	0.0%	7.7%	70.6%
32	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	全学年	28.8%	28.8%	32.5%	3.9%	5.6%	0.4%	9.5%	57.6%
		保護者	22.6%	30.5%	38.8%	5.3%	2.3%	0.5%	7.6%	53.1%
33	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	35.9%	33.7%	24.5%	3.8%	2.1%	0.0%	5.9%	69.6%
		2年	20.5%	31.1%	39.5%	3.7%	4.7%	0.5%	8.4%	51.6%
34	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	3年	42.6%	28.7%	22.4%	4.2%	2.1%	0.0%	6.3%	71.3%
		全学年	32.1%	31.3%	29.4%	3.9%	3.1%	0.2%	7.0%	63.4%
35	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	保護者	23.1%	32.3%	38.1%	4.2%	1.6%	0.7%	5.8%	55.4%
		1年	34.2%	34.8%	23.4%	5.4%	2.2%	0.0%	7.6%	69.0%
36	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	2年	22.6%	30.0%	37.4%	5.8%	3.7%	0.5%	9.5%	52.6%
		3年	44.0%	30.1%	19.6%	4.9%	1.4%	0.0%	6.3%	74.1%
37	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	全学年	32.7%	31.7%	27.5%	5.4%	2.5%	0.2%	7.9%	64.4%
		保護者	30.9%	43.7%	20.8%	3.2%	1.2%	0.2%	4.4%	74.6%



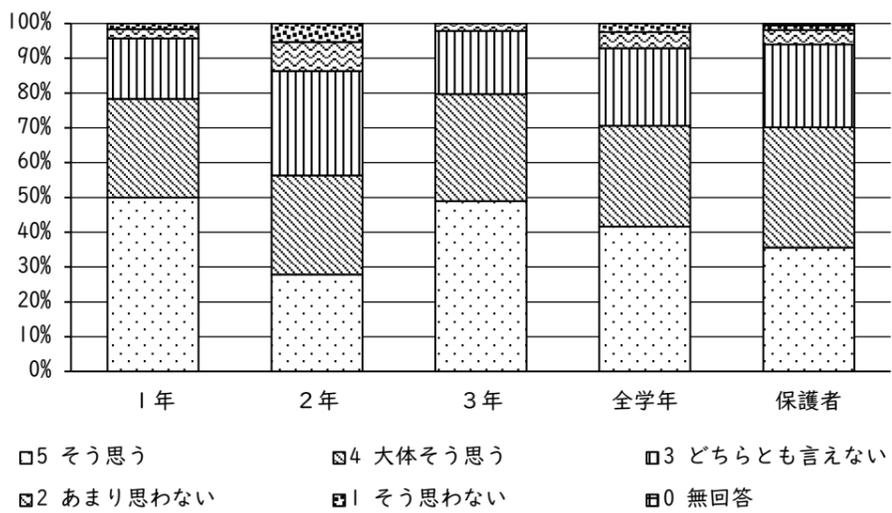
9. 教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている



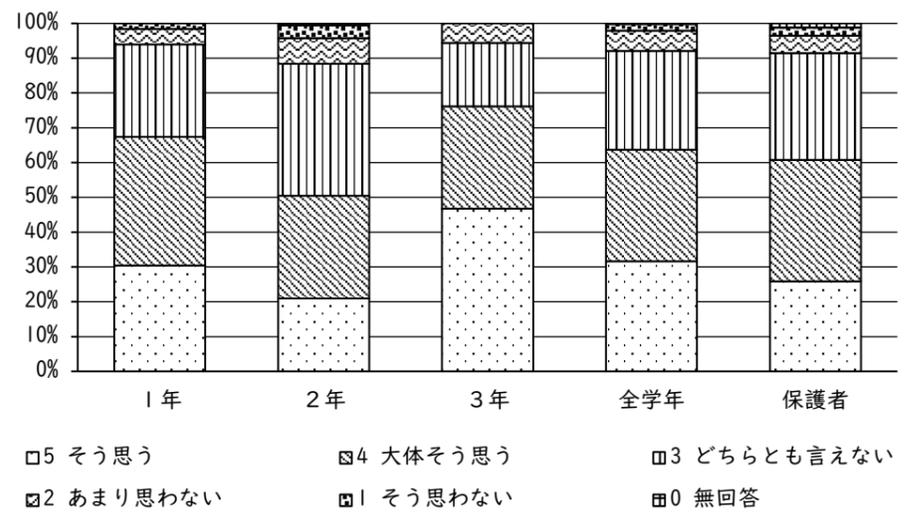
10. 教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している



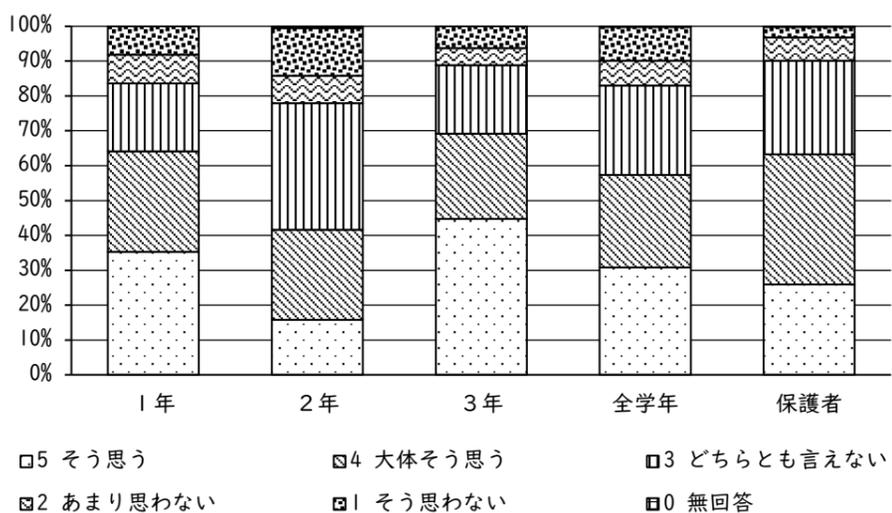
11. 緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している



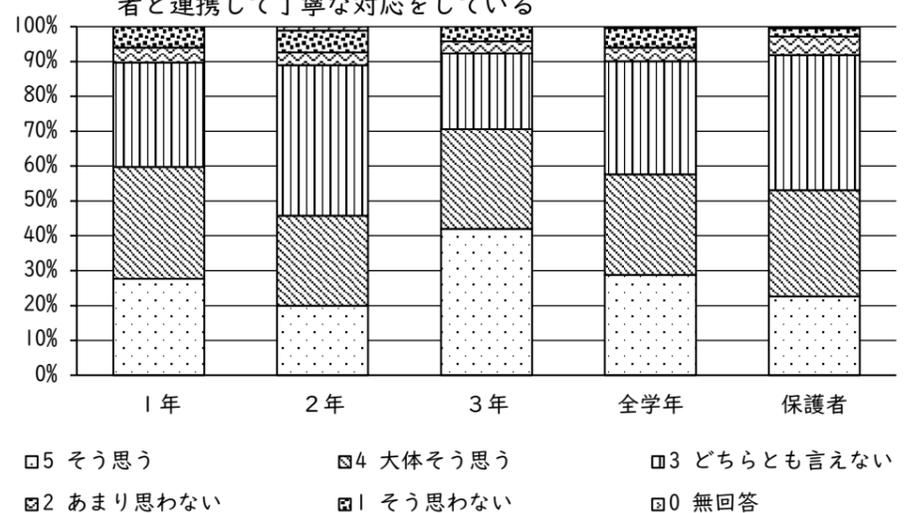
12. 教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している



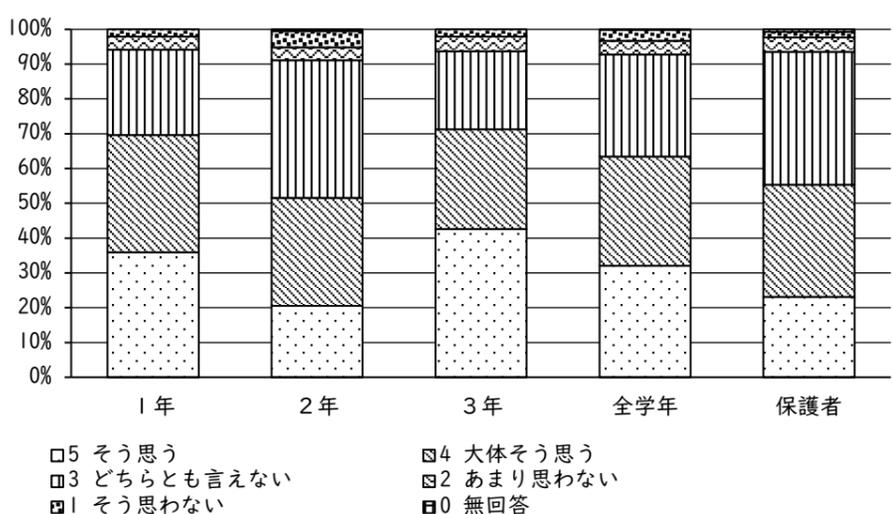
13. 学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている



14. 学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている



15. 学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している



16. 学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している

